

令和7年度第2回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

令和7年11月19日（水）午前10時～午前11時45分

2 場所

広島市役所本庁舎14階第7会議室（オンライン併用）

3 出席者

(1) 委員

西嶋 渉（会長）、田中 貴宏（副会長）、岩崎 翔太、大田 ナツミ、奥野 泰識、小迫 敏彦、土井 徹、中西 伸介、縄手 淳子、松川 太一、村田 和賀代、吉田 悦子（以上12名）

(2) 事務局（市）

環境局長、環境局次長、環境政策課長、温暖化対策課長、環境保全課長、業務第一課長、産業廃棄物指導課長

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

議題 第4次広島市環境基本計画の素案について

(3) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

- 令和7年度第2回広島市環境審議会 次第
- 委員名簿
- 配席表
- 第4次広島市環境基本計画（素案）
- 第4次広島市環境基本計画（素案）の概要

8 議事要旨

発言者	発言要旨
西嶋会長	・ 「第4次広島市環境基本計画の素案について」、事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	【第4次広島市環境基本計画の素案について説明】
西嶋会長	・ 事務局からの説明に対し、御意見、御質問等はないか。
岩崎委員	・ 今年度から実施しているスマートごみ箱の設置は、素案のどこに当たるのか。
環境政策課長	・ 35 ページの基本目標2の「2 ごみのないきれいなまちづくりの推進」の中で、個別具体的に進めていくことになる。
岩崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ IoT を活用した新しい取組であり、他自治体の参考にもなると思うので、施策の例として記載するのもいいと思う。 ・ 同じく、35 ページの基本目標2の「2 ごみのないきれいなまちづくりの推進」に歩行喫煙の防止について記載がある。最近、「広島市ばい捨て等の防止に関する条例」ができた当初と比べて歩行喫煙が増えてきているように感じる。記載のある「指導・啓発活動」はどのような内容か。
業務第一課長	・ 指導・啓発活動は、35 ページの基本目標2の2の「(2) ばい捨て・不法投棄防止対策の推進」が該当する。ばい捨て防止指導員が市内中心部の喫煙制限区域・美化推進区域内を巡回しながら、路上喫煙や吸い殻のばい捨てをしている方に対して指導と啓発を行っている。
岩崎委員	・ ばい捨て防止指導員は委託か。
業務第一課長	・ 本市職員である。OB 職員2名と、委託する警備員1名で巡回している。
岩崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回清掃・巡回パトロールに一般市民も参加し、一緒にばい捨て防止の啓発ができればいいと思うので検討してほしい。 ・ 34 ページからの基本目標2に「リサイクル」という言葉がよく出てくるが、「アップサイクル」も加えてはどうか。
環境政策課長	・ アップサイクルは、まだ一般的に浸透している言葉とは言えないと思う。基本目標2の達成に向けた施策の基本は、ごみの減量とリサイクルだと考えている。御意見については検討し、答申案でお示ししたい。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 43 ページの基本目標3の「豊かな自然環境の保全に関して参考となる主な指標等」のうち生物多様性の確保の指標は、市民意識調査により数値を把握することであるが、項目はどのようなものか。また、新たに設定した指標であるので、生物多様性の保全や損失につながる取組をコラムとして掲載してはどうか。 ・ 38 ページからの基本目標3に「森林の荒廃」という言葉が多く出てくる。森林の荒廃は林業が廃れたことによる影響だけではなく、森林を切り開いて大規模に太陽光パネルを設置したことによる影響も大きい。農地の耕作放棄地に太陽光パネルが設置されている光景も見かける。太陽光発電の発電量によって規制の有無が変わってくるが、緑の保全に向けて太陽光パネルの設置規制ができないか。 ・ 前回の環境審議会で、市の清掃工場発電した熱エネルギーを、市内のプー

発言者	発言要旨
	ルで利用しているとの説明があった。30 ページの基本目標 1 の 1 の「(3) エネルギーの地産地消の促進」では余剰電力のことしか触れていないが、熱エネルギーについても記載してはどうか。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員御指摘のとおり、本市では中工場で発電した熱エネルギーを吉島屋内プールに送るなど、熱エネルギーも積極的に利用している。計画への記載を検討したい。 ・ FIT 制度により太陽光パネルの設置を行う場合は経済産業省による認定が必要となり、認定に当たり環境への配慮がチェックされる。開発等人的要因の視点も踏まえて、森林の荒廃に関する文章の書きぶりを検討したい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識調査は、「次に掲げる取組で、あなたが普段から行っているものは」という質問に対し、「地産地消を心掛ける」、「海・山・川・動物園・植物園に行き自然や生きものへの理解を深める」等の選択肢を設けている。その回答結果から生物多様性の確保に関する指標の数値を把握することとしている。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識調査の項目に市の取組を入れるなど、適宜見直しを図ってほしい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識調査の選択肢は、生物多様性の保全に直接つながる取組ではないように思うので、工夫が必要ではないか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の方針を踏まえて選択肢を設定している。
大田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリーンボランティアや森林ボランティアは、無償なのか。ポイントが付くこともないのか。
業務第一課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ クリーンボランティアは無償である。ただ、クリーンボランティアに取り組む方から事前に申し出ただけであれば、ゴミ袋や軍手といった清掃用具の貸出しを行っている。また、6 月の「ごみゼロ・クリーンキャンペーン」に御参加いただいたクリーンボランティアには「としポ」アプリを活用したアンケートを実施しており、アンケートに御回答いただいた方にポイントを付与している。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林ボランティアのほうは、担当部署の職員が本日の審議会に出席していないため、改めて確認する。
大田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17 ページの第 1 章第 7 節の「6 環境美化」に、「クリーンボランティア支援事業参加者数は減少傾向」との記載がある。ボランティア活動が無償でしてもらうのは難しくなっていると思う。いきいき活動ポイントなど何かしらの特典があれば、励みにもなり、ボランティア参加者数も増えていくのではないか。
縄手委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場で車やトラックのエンジンをかけたまま休憩をとっている方をよく見かける。騒音の問題や排出ガス削減の観点からも、市からアイドリングストップの働き掛けができないか。
環境保全課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「広島県生活環境の保全等に関する条例」では、一定規模以上の駐車場設置者や管理者に対し、駐車場利用者への駐車時のアイドリングストップ周知が義務付けられており、本市 HP でも呼びかけを行っている。個別に問題となる案件があれば、当課に相談してほしい。

発言者	発言要旨
大田委員	<ul style="list-style-type: none"> 息子が配送の仕事をしており、車内で昼休憩を取る。夏場は体調が悪化するくらい車内が暑くなるので、クーラーを付けざるを得ない。そういう現状があることも知ってもらいたい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 行政も熱中症予防のため、夏場は無理をしないよう呼び掛けている。バランスが大切だと思う。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> 48 ページの基本目標 5 の 1 の「(1) 学校や家庭における環境教育・学習の推進」に関して、「各教科等の学習活動を通じた」という文言は、「食品ロスへの理解の醸成」にだけかかっているのか、それとも「食品ロスへの理解の醸成」から「環境ポスターの募集」まで全てにかかっているのか、この文章では読み取れない。 食品ロスの排出は消費者と事業者がおおむね半分ずつとの統計が出ている。 49 ページの基本目標 5 の 1 の「(2) 職場や地域における環境教育・学習の推進」に、食品加工業や食品製造業における食品ロス削減を促すような文言が入っていてもいいのではと思う。素案では食品ロスという単語が繰り返し出てくるが、事業者における食品ロス削減の取組が出てこないのはバランスが悪いように思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 答申案に向けて整理したい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロスは市民・事業者双方の問題であるとの御指摘であった。 34 ページの基本目標 2 の「1 ごみの減量・リサイクル等の推進」に食品ロスの記載があるが、一般廃棄物の説明として入れられている。食品ロスは事業者の問題でもあるので、入れ方等を検討してもらいたい。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> 広島市の森林が太陽光パネル設置のためにどの程度切り開かれたかわかるか。森林には水源涵養機能や二酸化炭素吸収など多様な機能があり、そこを切り開いて太陽光パネルを設置するというのはおかしな話である。 「基本目標 2 ゼロエミッションシティ広島の実現」に食品ロスの削減が入って良かったと思う。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光パネル設置のためにどの程度森林が切り開かれたかは、改めて確認する。
小迫委員	<ul style="list-style-type: none"> 3 ページの「図 1 SDGs 一覧」に関して、第 4 次計画と関連する SDGs に目標 1 と目標 5 が含まれていない。気象の変動が経済へ大きな影響を与えられていると言われており、目標 1 は計画に関連するとしてももらいたい。また、以前、ピースウィング広島のバックヤードツアーで、男性用でも女性用でもないトイレを作っていると聞いた。環境と直接結びつかないかもしれないが、ジェンダーをなくすということは環境配慮の意味合いも大きいのではと思う。できれば SDGs の 17 の目標全てを第 4 次計画と関連付けてもらいたい。 全国的にクマの被害が大きな問題となっている。広島県ではあまり被害が出ていないが危険な動物であることは間違いない。また、昨日のニュースで、市内中心部にサルが出没したとあった。40 ページの基本目標 3 の「2 緑の保全」

発言者	発言要旨
	<p>の鳥獣被害としてイノシシやニホンジカが例示されているが、クマとサルも加えてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じく 40 ページの基本目標 3 の「2 緑の保全」にグリーンインフラの記載があるが、用語解説を読んでも何をするのかよくわからないので、もう少し具体的に説明を入れてはどうか。 ・ ばい捨て防止指導員の官民連携ができるようなら検討してみてもどうか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の行政計画を確認したところ、どれも環境に係る項目において SDGs の目標 1 と 5 を位置付けていなかったため、素案でこのようにお示ししているが、答申案に向けて検討する。 ・ クマやサルの記載についても検討する。 ・ 環境基本計画は大綱的な計画であり、グリーンインフラの視点を取り入れるという方針を示すことで、インフラを整備する部署において個別具体的に施策を展開していくことになる。他とのバランスを考えると、これくらいの記載とさせていただきたい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 ページは SDGs の各目標の説明が書かれているだけで、環境基本計画のどの項目と関連しているのかわからない。これだけではとってつけたように見える。SDGs の推進に向けて何かやらなければならないと思っている市民は多いと思う。3 ページに書くのは難しいと思うが、今後施策を展開する中で考えてもらいたい。
松川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 次計画と比較すると、指標の数が全体として減っているがその理由は。 ・ 総合的・横断的視点が第 3 次計画では章立てされていたが、第 4 次計画では章の中の一つの節になっており、ランクダウンしているように見える。 ・ 54 ページの「第 4 章 計画の推進」に、市民、事業者、行政が協働するとあるが、どのように協働するのか、総合的・横断的視点をどのように確保するのか。各主体間の協働、各計画間の調整に関する指標やチェックする方法はあるのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標に関して、これまでの議論の中で、「各施策の方針に掲げる指標の数が異なるので、施策の重みが違っているように見える」、「数値を毎年把握できない指標では、進捗状況の確認ができない」という御意見があったことから、原則として、一つの施策の方針に対し、数値の把握が可能な一つの指標を掲げることとした。ただし、環境の施策は数値として現れないものも多いことから、指標だけをもって計画全体の進捗状況を確認できるとは思っていない。あくまで参考となる指標として代表となるものを施策の方針に対して一つ掲げている。今後、審議会で計画の進捗状況を報告する際には、指標の状況だけでなく、例えば、広島市の環境（広島市環境白書）を用いて個別の施策も踏まえながら報告することによって PDCA サイクルを回していきたいと考えている。 ・ 総合的・横断的視点を章から節にした理由は、目指すべき環境像や基本目標とのつながりの中で 2 章にまとめることが適当と考えたためである。

発言者	発言要旨
	<ul style="list-style-type: none"> 委員御指摘のとおりチェックは難しいが、計画では総合的・横断的視点をもって市全体で施策を展開するということを示している、と捉えていただきたい。環境局はもちろんのこと、それ以外の局においても環境の保全及び創造について、協働や総合的・横断的視点を意識してもらいながら取り組んでもらうものと考えている。
松川委員	<ul style="list-style-type: none"> 47 ページの基本目標 4 の「健全で快適な生活環境の保全に関して参考となる主な指標等」の指標は、一つの施策の方針に対し一つとなっていないが、なぜか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの汚染物質に関して環境基準が設定されており一つに絞ることが難しいため、基本目標 4 の指標のみ、例外として、一つの施策の方針に対し複数の指標を掲げている。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 4 だけ指標の数が多く、アンバランスに見える。 PDCA サイクルを回し、計画に則った施策が展開できているか、指標は適切か、状態がどのように変わったのかを提示していかなければならないが、素案ではあまり詳しく書かれていないため、「第 3 次計画と比べて指標の数が減っており、削除された指標はいらなくなったのか」という質問が出るのも自然である。進捗管理も含めてどのようにしていくのかは重要な指摘だと思う。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 46 ページから 47 ページにかけて、基本目標 4 の「4 騒音・振動の規制」に自動車騒音の記載がある。自動車騒音は路面の状況や交通の集中、渋滞によっても発生する。夏の熱い日射によって柔らかくなったアスファルトに大型車の重量やブレーキがかかると道路が変形し、その上を大型車がスピードを上げて走ると大きな騒音が発生する。道路の凸凹は振動にもなる。交通や騒音源の集中をなくすため、基本目標 4 の「4 騒音・振動の規制」に道路網の整備を加えてはどうか。自動車そのものの騒音はメーカーの対応が必要となるが、道路に起因する騒音は市が道路の整備をすることで低減していくことができる。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 道路の修繕は騒音や振動の対策にも通じるものであり、担当課と調整し、記載について検討したい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 他に御質問等ないか。ないようであれば、事務局は、本日の委員の皆様からの御意見を踏まえて、答申案の作成に当たってもらいたい。 本日予定していた議事については、これで終了する。